

## 5. まとめ・今後の課題

近年の地質を取り巻く環境は、ISO, JISなどをはじめとする国際・国内的な基準化が急速に進んでいる。このような状況を考慮すれば、できる限り早い時期に土木地質図に関する何らかの基準をまとめ、今まで積み上げてきた膨大な既往資料を今後の調査及び成果に活用させてゆくことが必要と考えられる。

また、電子納品などにみられるように調査・試験などの結果を電子成果品とする段階で、名称や表現は共通化されることが多く、その共通な表現としてコード化が導入される事が多い。逆にこの共通化・コード化により従来表現されていた微妙で詳細な現場情報や(工学的)表現が消えてゆく危険性もあることから、共通化やコード化には慎重な作業が求められる。

以上の点を考慮して本WGは、土木地質図とは何か、地質図と土木地質図とは何が違うのかを、用語・用法・記号など中心に検討を行い、国際的な地質の分類体系を基に『土木地質図を利用する上で必要不可欠な表現・特徴の抽出』を行った。

第1章の「総論」では土木地質図とは何かを検討し、その特徴及び要求事項―求められる内容―を明確にし、土木地質図故に必要な事項を列挙し第2章以下の検討に入った。

第2章の「地質名称」では、

「2-1. 地質名称の整理」でJIS A 0204 を基に土木地質図で使用されることが多い『フィールドネーム』なども追加して検討を行った。これは『土木地質図が理学(地質学)と工学の両分野を結ぶ考察図であるが故の特徴』である。さらに、断面図で必須条件に近いボーリング柱状図を考慮して「図模様」を地質調査整理要領(案)をもとに整理した。

「2-2体系化のための問題点の抽出」では、地質名称を整理してゆく段階で浮き彫りになってきた「地質名称」と「工学的意味を持つ用語(名称)」の問題点を整理した。

第3章の「形容詞句関連」ではJIS A 0204 を基に工学的考察に必要な「風化・変質」などを追加・検討を行った。また、用語の乱れを無くすために「コード化の必要性」についても考察を行った。

第4章の「記号関連」では、土木地質図の特徴(縮尺・方位)及び必要記載事項を検討し、平面図・断面図における記号類の整理を行った。

各章での整理・検討の基本的考えは、『土木地質図は調査を担当する地質技術者が設計・施工・補修などを行う土木技術者に地質工学的判断・考察を伝える重要なインターフェース』であり、このためには地質学的な基準を踏まえながらも土木技術者に誤解を招かない(一目で理解できる)資料・図面等を渡すことが大切であるという点に重点をおいた。

今後の検討課題としては、

土木地質図の体系化・基準化を進める上で、『工学的考察を表現する土木地質図』に必要な表現・特徴を再度抽出・整理して各種基準・規格との整合性の検討を行い、取りまとめた「成果」を公開し、広くユーザーから意見を求めながら使い易い基準を目指した提案を行うことが必要と思われる。